

PEM005-06

会場:303

時間:5月26日 15:35-15:50

アジア・オセアニア宇宙天気アライアンス構想 Asia-Oceania Space Weather Alliance

村田 健史^{1*}, 亘 慎一¹, 長妻 努¹

Ken T. Murata^{1*}, Shinichi Watari¹, Tsutomu Nagatsuma¹

¹ 情報通信研究機構

¹NICT

21世紀に入り、我々の宇宙利用はますます進み、「21世紀は宇宙の時代」と言われている。宇宙空間に打ち上げられる衛星等の飛翔体はますます増えており、静止軌道にはすでに300以上の衛星が打ち上げられている。これらの宇宙飛翔体の安全な運用のためには、飛翔体近傍の電磁環境や高エネルギー粒子環境の予測は必須である。これらなしには、宇宙空間での人工物の運用を行うことは難しい。これらの環境情報は、地上の天気予報を模して「宇宙天気」と呼ばれている。

宇宙天気を実用的のサービスするためには、国際協力が不可欠である。衛星を1基打ち上げるのには100億円以上かかり、また地上観測はその地域性から国際協力なしには広いエリアでの観測はあり得ない。

宇宙天気のための科学研究と運用の協力体制の実現を目指して、現在、米国および欧州では、宇宙天気ワークショップ (Space Weather Workshop と Space Weather Week) が毎年開催されている。そこでは、地域的な協力体制を作るため、研究面と運用面の両面からの宇宙天気に関する情報交換が積極的に進められている。

残念ながら、これまで、アジア・オセアニア地域には、これに類する協力体制がなかった。そこで、昨年より、情報通信研究機構が中心となりアジア・オセアニア宇宙天気アライアンス (Asia-Oceania Space Weather Alliance) の提案を行っている。インドネシア及びタイにおいて2回のキックオフ会議を開催し、また、それ以外の国との個別の議論も進めている。これらを通じて、アジア・オセアニア地域の10以上の国 (日本、中国、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、インドネシア、インド、オーストラリア、タイ、フィリピンなど) からの参加者が集まり、議論を進めている。

発表では、AOSWAの趣旨についての説明を行い、またアライアンス立ち上げの現状について報告し、また、AOSWAへの参加を呼び掛ける予定である。



キーワード: アジア, オセアニア, 宇宙天気, アライアンス, 観測, シミュレーション

Keywords: Asia, Oceania, Space Weather, Alliance, Observation, Simulation